

(別紙3)

(参考) HIV/エイズの基礎知識

1 HIVとエイズ

(1) HIV/エイズとは

HIVは、Human (ヒト) Immunodeficiency (免疫不全) Virus (ウイルス) というウイルスの名前です。HIVに感染することで、本来病原体から体を守るはたらきをしている「免疫力」が低下して、さまざまな病気に感染しやすくなった状態をエイズ(AIDS=Acquired (後天性) ImmunoDeficiency (免疫不全) Syndrome (症候群)) といいます。

HIVに感染しても、すぐにエイズを発症するわけではなく、免疫力が低下して発症するまで数年と、ある一定期間自覚症状のない時期が続くことが特徴です。感染の初期に風邪やインフルエンザに似た症状が出る場合がありますが、HIV検査を受けなければ感染しているかどうかはわかりません。

(2) 感染経路

感染経路は、性行為による感染、血液感染、母子感染です。

- 性行為による感染
異性間・同性間の性行為中、性器や肛門、口などの粘膜や傷口を通して感染
- 血液感染
依存性薬物の「回し打ち」など、注射器具の共用等によって感染
- 母子感染
HIVに感染している母親から赤ちゃんへの感染

この3つの経路以外で感染することはありません。感染経路が限られるので、正しい予防方法で、感染を予防することができます。とくに、日本では性行為による感染が圧倒的に多いので、「ノーセックス」(性行為をしない)、「セーフセックス」(コンドームを使用する、特定のパートナー以外との性行為はしない等)が予防になります。

～こんなことでは感染しません～

くしゃみや咳、蚊やノミにかまれる、握手・ハグ・軽いキス、トイレ・お風呂の共用、ペットを撫でる、飲み物の回し飲み など

ポイント (伝えたいメッセージ)

- ・ HIV=エイズではない。HIVに感染しても検査を受けて早期に発見し、治療をすればエイズの発症を抑えることができる。
- ・ 感染経路を正しく知り、HIVに感染している人との日常生活の中では感染しないと理解することで、陽性者への差別や偏見を防止する。
- ・ 性行為による感染が圧倒的に多い。自分がどんな予防行動をとれば感染防止につながるか、考えることが大切。

2 エイズの現状

(1) 世界と日本の現状

国連合同エイズ計画（UNAIDS）の発表によると、2019年末現在で約3,800万人のHIV感染者とエイズ患者がいます。

日本では、2020年のHIV感染者及びエイズ患者の新規報告数（速報値）は1,076件であり、4年連続で減少となったものの予断を許さない状況です。

(2) 京都の現状

京都市では毎年15件程度の新規HIV感染者及びエイズ患者が報告されており、減少していません。また、10代の感染者もほぼ毎年発生しています。

ポイント（伝えたいメッセージ）

- ・ HIV／エイズは今でも身近な問題であり、他人事にはできない。
- ・ 若い世代にとっても重要な問題である。

3 検査と治療について

(1) HIV検査について

HIV検査は、全国の保健所等で無料・匿名で受検できます。

～京都市のHIV検査の流れ～

予約・受付

予約のうえ、受検してください。会場にて予約番号をお伺いしますが、お名前や住所を聞くことはありません。

問診

看護師等が面接でお話を伺います。心配なことを相談でき、相談の内容についてプライバシーは完全に守られます。

採血・採尿

HIV検査を希望される方は採血のみ、性感染症検査を同時に希望される方は尿検査があります。

結果説明

医師等から本人にのみ、面接で結果を説明します。

<結果返却日>

通常検査の場合・・・おおむね2週間後の検査日

即日検査の場合・・・HIVは即日、性感染症はおおむね2週間後の検査日

京都市の検査について、詳しくはこちら



(2) 治療について

現在のところ、体内のHIVウイルスを完全に取り除く治療法はありません。ただし、医学の進歩によって、エイズを発症する前に服薬治療を始め、正しく継続すれば、ウイルス量をコントロールでき発症を抑えることが可能です。ウイルス量をコントロールできれば、定期的に病院に通いながら、仕事や学校など日常生活を送ることが可能です。服薬する薬も、近年は一日一回の服薬など、負担が少なくなりました。

ポイント（伝えたいメッセージ）

- ・ 感染の心配があれば、まず検査を受けてもらいたい。自分の状態を知ることが、自分のためであり、相手のためでもある。
- ・ 無料、匿名で受検できるので、気軽に活用してほしい。
- ・ 感染しても、早期に分かればさまざまな専門家や支援者、当事者のグループなど一緒にH I V／エイズと向き合ってくれる人がいる。一人で抱えず、相談しながら治療できる。
- ・ 現在は治療しながら社会生活を継続している方がたくさんおられ、「不治の病」ではない。しかし、エイズ＝怖い病気というイメージが強く、偏見や差別に苦しむ人もいる。病気のイメージを変えていくことも大切である。

4 世界エイズデーとレッドリボンについて

(1) 世界エイズデー

世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12月1日が“World AIDS Day”（世界エイズデー）と定められました。この日を中心に、世界各地でエイズ予防・支援のためのイベントなどが行われています。

(2) レッドリボン

“レッドリボン（赤いリボン）”は、エイズに関する理解と支援のシンボルマークです。レッドリボンは、あなたがエイズに関して偏見を持っていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。

京都市エイズ啓発キャラクターの“あかりん”は、このレッドリボンをモチーフに作成されました。H I V／エイズについて、もっともっと知ってほしいという意味が込められています。



京都市エイズ啓発キャラクター
「あかりん」

作成に当たって注意したいこと（不適切な表現等）

以下のような、患者・感染者を傷つけたり、差別、偏見を助長するような表現は避ける

(例) エイズ撲滅, エイズ抑圧, エイズ根絶

⇒患者・感染者が傷つく表現なので避ける。「H I V感染者／エイズのまん延の防止」「患者・感染者に対する差別と偏見の解消」などの表現が望ましい。

(例) エイズをたたきのめす, やっつける

⇒患者・感染者を排除しようとするイメージを与える表現なので避ける。

(例) エイズ汚染, エイズ禍, ウイルスをまき散らす

⇒患者・感染者が社会を汚しているというイメージを与える表現なので避ける。

(例) 理性ある行動をとるべき, 節度ある行動をとるべき

⇒患者・感染者はだらしがない人というイメージを与える表現なので避ける。

(例) ハイリスクの人, エイズ多発国, エイズ先進国

⇒危険なのは、「人」ではなくハイリスクな「行動」。また、H I V感染の流行について「多発国」「先進国」という表現は不適切なので避ける。

(例) (感染すると／発病すれば) 必ず (100%) 死ぬ

⇒近年、治療の進歩により、H I V感染症が早期に診断されれば、服薬を続けることでエイズ発症を抑えることが可能である。また、エイズを発症したとしても、適切な治療を受けることで「必ず (100%) 死ぬ」とは限らず、適切な表現ではないため避ける。

(例) エイズの恐怖・魔の手, 忍び寄るエイズ

⇒いたずらに恐怖心をあおる表現は避ける。

(例) ホモ (ホモセクシュアル)

⇒蔑称^{べっしょう}として使われることが多い。「MSM」「男性同性愛者」「ゲイ」などの表現が望ましい。

※ MSM (Men who have sex with men): 男性で同性間性的接触を行う者 (バイセクシュアルも含まれる。)

(例) レズ

⇒「ホモ」とセットで蔑称^{べっしょう}として使われている。「レズビアン」「女性同性愛者」などの表現が望ましい。

(例) 多数との無防備なセックス

⇒相手が多数でなければ大丈夫という誤解を与えるため避ける。

(例) コンドームを使うのは男の役割

⇒女性用コンドームの使用もありうること、また、同性間での性的接触もあることなどから、適切な表現ではないため避ける。